

## 2012年度 活動方針・運営方針

2012年 4月 1日から 2013年 3月 31日まで

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア 寺田茂 / 北野翔平

### 1. 2012年度 活動方針

- ◆ 環境教育プログラムの研究開発及び実践を更に普及させる
- ◆ 環境教育に関するインターンシップ制度の制度拡充・組織化を進める
- ◆ 協働実践の新たな形成、行政・学校、企業等民間組織のCSR、環境団体・NPOとの連携をはかる
- ◆ 定例行事の継続的实施及び、対外的連携イベントへの積極的な参加を進める
- ◆ 沖縄に次ぐ、新規エコツアーを立ち上げる。

以上の方針について、以下に具体的な内容を示すこととする。

#### 1.1. 環境教育分野〔A〕

##### 1.1.1. 環境教育プログラム研究開発・実践活動〔A.1〕

- 環境教育プログラム開発

環境教育プログラムの研究開発を専門グループ(希望者など)・個人・学生のアイデアで、ワークショップの場を開発提案していく。特に、幼児向け・学童クラブ・児童館・中学校・高校・大学での実践版を開発していく。また、これまでの実績あるプログラムを新しい対象用にバージョンアップするなど改善・開発する。

議論の場である年間約10回のワークショップについて、毎回新プログラムを生み出していくような企画実践力を付け、楽しく学べるプログラムを提供していく。ワークショップも、事前に提案を作って持ち寄り、会合の負担が重くならないように工夫する。夏休みなどを使いプログラム作りの研修会(楽しい合宿など)を特設することも検討する。

新規に立ち上げる環境教育インターンシップ制度との兼ね合いでは、インターンシップ生の意欲・関心・専門分野に合わせて、やってみたいプログラムの提案を募り、研修生の意欲を高め、子どもたち・学生・市民に通用するプログラムの開発能力を高めていく。

各校種ごとの開発計画として、保育園・小学校・中学校に向けては、今年度も新規プログラム開発を進める。その際の留意点としては、環境教育の教育現場への継続的な発信を念頭においたカリキュラム作成及び季節ごとのプログラムの提案を進める点がある。具体的には、「食べ物はどこから」を導入プログラムとした食文化と環境とのつながりを考えるプログラム開発や、ネイチャーゲームプログラムを保育園等に季節のお勧めプログラムとして発信するためのプログラム開発を念頭に置いている。

新規展開を予定している高校・大学向けには、すでに開発した中学校版の5つ(味噌・とうふ含む)とこれから仕上げていく「放射線から体を守る生活の工夫」を勧め、実践する中で新しいプログラム開発を行っていく。

新規展開を予定している学童クラブ・児童館向けには、すでに実践している「キロリのおにごっこ」「動物交差点」「私はだれでしょう」「たからさがし」「フィールドパターン ― 季節の自然と遊ぼう」「コウモリとガ」「カモフラージュ」などを、先方と相談しながら提案する。

※ 校種別の既存のプログラム数と 2012 年度の拡大計画

校種	既存の主要プログラム	既存の組み合わせプログラム	2012 年度拡大計画
保育園・幼稚園	7	6	3 ～ 5
小学校	11	5	3
中学校	5	-	2
高等学校	5	-	2
大学	3 ～ 5	-	2
学童・児童館	6	-	5
市民向け	2	-	0

• 出張授業・出前授業

環境教育の普及において、これまでの小中・大学での実績に加え、2011 年度では、新たに保育園へ対象を広げ、10 園で実施し、保育園の中で一定の関心を持たれるようになった。2012 年度ではこの活動を区立幼稚園・私立保育園、学童クラブ・児童館さらに高校・大学へ広報を届け、プログラム実践を広げていく。

板橋区内保育園・小学校・中学校ではすでにそれぞれの園数・校数の四分の一レベルに浸透している。学童クラブ・児童館向け広報を作り、板橋区こども家庭部など行政との連携も図りながら、実践の場を広げる。板橋区小学校放課後アイキッズなどとの連絡をとっていく。

高校・大学への働き掛けは、時期を見て計画的に進める。インターンシップもあり、5 月中旬に、大学のキャリア支援課などへ働きかけたい。高校は随時、校長へ面会を申し入れていく。

※ 活動実績のエコポリスセンターとの比較（エコポリの実績は 2007 年度）

出張授業数 エコポリ 181 回 センスオブアース 36 回  
→ 対エコポリ 20%の回数となった。

区民総参加人数 エコポリ 69,800 人 センスオブアース 1,544 人+α  
→ 対エコポリ 2%以上である。

財政資金を持つ行政の事業実績に対し、授業分野ではセンスオブアースが20%に達する。

※ 校種別の授業数の 2011 年度の実績と 2012 年度の拡大計画

校種	2011 年度の実施記録	2012 年度拡大計画	2012 年度実施計画
公立保育園	10 園 (のべ 14 回) e.g. 小桜・南・高島平くるみ・高島平けやき・栄町・若木・向原・蓮根・志村坂下・ときわ台	5 園 e.g. 西前野・かないくぼ・仲宿・板橋・中板橋 他	15 園 → 全園 (43 園) の 36%
私立保育園	0 園	5 園 e.g. つつじ 他	5 園 → 全園 (50 園) の 10%
公私立幼稚園	0 園	5 園	5 園 → 全園 (36 園) の 37%
公立小学校	6 校 (のべ 15 回) e.g. 三園・板橋第二・板橋第七・赤塚新町・徳丸・蓮根第二 (行事) ※累計 15 校 (のべ 56 回)	5 校 e.g. 天津わかしお・ときわ台・志村第五・志村第二・板橋第八・板橋第五・加賀・高島平第三 他	20 校 (累計及び拡大分) → 全校 (54 校) の 37%

公立中学校	2校 (のべ4回) e.g. 向原・中台 ※累計6校 (のべ11回)	2校	8校 (累計及び拡大分) →全校 (23校) の35%
公立高等学校	0校	2校 e.g. 板橋・大山・北園・板橋有徳・北豊島工業・高島他 (区内の都立高等学校)	2校
私立学校	0校	1校 e.g. 帝京大学付属・淑徳・城北・帝京・東京家政付属・日大豊山女子・芝浦工業大付属 他 (区内の私立学校)	1校
大学	1校 (1回) e.g. 日本女子	2校 e.g. 東京家政・大東文化・淑徳短期・帝京・日本 他 (区内の大学)	3校
学童・児童館	0館	5館 (区内公私立学童クラブ及び児童館)	5館 cf. 学童 (公立57箇所・私立2箇所) / 児童館 (38館)
市民向け	2地域 (のべ3回)		2地域
合計	21箇所 出張回数 37回 参加者 1,544人	20箇所 (総計36箇所のうち半分程度実施の場合)	35箇所 (拡大分及び実践経験校のうち保育園6、小学校7、中学校2と見なして算出)

注) 市民向け講座については、子育て講座での「イチヨウの精キロリの不思議ないのり・お月さまと遊べる親子」とみそ作りワークショップ「手前みそを作ろう」のみ換算した。

### 1.1.2. 環境教育指導者養成活動 [A.2]

#### • 環境教育インターン制度整備事業

2010年度の法政大学の単位認定制度を利用した学生3名の受け入れと、2010-2011年度のNPO法人グラウンドワーク三島の研修生4名の受け入れ。この取り組みによって、研修生の環境教育実践の体験の場を提供できたことと、環境教育を指導できる指導力養成の場を創りだし、研究の単位に認定されたことで、学生・研修生にとって実社会で環境活動を学ぶ貴重な機会となった。同時にセンスオブアースにとっても、環境教育の実践スタッフとして活動に参加するメンバーを確保でき、交流によるエネルギーも高められ、その後の実践を広げる力となった。現在までに、一部の研修経験者との交流も継続している。また、グラウンドワーク三島より負担金が寄せられ、財務上の支援ともなった。

この実績から、本年度より新規事業として立ち上げ、強化を進めていくのが環境教育インターンシップ制度整備事業である。本事業では、インターンシップ生にセンスオブアースの環境教育プログラム研究開発の活動や出張授業への参加を求め、環境教育に関する知識・指導スキル等を学ぶ場を提供する。インターンシップ生には、最終目標として自らが開発したプログラムを、センスオブアースの協力を得ながら子どもたちに実践することを据えてもらった上で、研修を進める。

本事業年度では、受け入れ体制を確立させるとともに、インターンシップ受け入れの大学対象を増やし、受け入れ態勢を軌道に乗せていく年度とする。日本女子大学とはすでに連絡が出来、申請するのみである。法政大学は、一昨年に受け入れ実績があり、書類を整えて、大学へ受け入れ申し入れを速やかに行う。家政

大・大東文化大・淑徳短大の担当課にそれぞれ確認、準備を行う。

なお、本事業に関しては、2012年度の地球環境基金に助成金申請を進めていたが、残念ながら受理されなかった。今年度の実績を踏まえ、次年度の助成金申請へとつなげていく。

- 各種教員養成講座等、関連事業の開催

昨年度はセンスオブアースの教員経験者による教員採用試験対策講座が公式には初めて開催され学生スタッフを中心に5人の参加者があった。また、8月上旬にはネイチャーゲームリーダー養成講座を開催し、8人がネイチャーゲームリーダーの資格を得た。

今年度についても、運営スタッフやインターンシップ生において希望するものに対しては教員採用試験対策講座を開催し、センスオブアースで環境教育を学んだ教員を増やすべく努力を進める。ネイチャーゲームリーダー養成講座についても、基本的には昨年と同時期に開催を予定している。

### 1.1.3. 環境教育ネットワーク構築活動〔A.3〕

- 各種協働による環境教育展開

これまで、センスオブアースは行政・環境団体・大学・学生との協働を中心に推進してきた。昨年度に関しては、ネイチャーゲームによる環境教育を進める遊心や板橋区での環境教育推進を担うエコポリスセンターの授業に関して、スタッフ派遣等の形で協働を行った。

さらに、協働による組織の発展を図るため、これらの組織と共に、民間企業も含む社会の環境への関心と活動意欲をくみ上げ、エコポリスセンターの新たな委託業者である学研を含む、民間企業の環境に配慮した提案 CSR との相互理解・連携を進める。

※ 協働を進める事業者の候補

行政関連： 板橋区資源環境部 環境課協働推進係〔エコポリより遠藤氏・佐々木氏が異動〕

板橋区教育委員会教育長

板橋区教育委員会事務局 学校地域連携担当課（アイキッズ）

板橋区教育委員会事務局 指導室（環境教育担当）

板橋区教育委員会事務局 生涯学習課〔子育て講座を担当〕

板橋区子どもと家庭部〔保育園・幼稚園・学童・児童館などを所管〕

板橋区土木部 みどりと公園課

独立行政法人環境再生保全機構〔地球環境基金を運営〕 他

民間団体： 学研〔エコポリの指定管理者〕

その他、地元でCSRの計画を実践中の企業

各私立大学 キャリア支援課関係

エコポリ登録の民間団体

板橋野鳥クラブ〔野鳥観察会・荒川クリーンエイドで協力〕

板橋環境会議〔環境なんでも見本市などを運営〕

NPO 響〔アースデイいのちの森を運営〕

江戸の郷代々木ネイチャーゲームの会〔アースデイいのちの森で協力〕

NHK〔ECOパークを運営〕

いたばし総合ボランティアセンター

エコリーグ〔環境情報交流会などを運営〕

- 大学サークル支援ネットワーク構想事業

2009年度に先方の依頼により実現した、環境三四郎・環境ロドリゲス・ECOといった大学の環境サークルに対してセンスオブアースが環境教育のプログラム開発の仕方などを指導するワークショップ。その実践のような、大学サークルへの働きかけで関係性を強め、長期的にはそれら環境教育に関わる大学のネットワークのハブとして相互交流の仲介役を担い、環境教育についての勉強会を開催したり環境教育を実践する場を提供したりするのが、本構想である。

今年度は準備期間と位置づけているため具体的な目標は明記しないが、環境教育を進める大学サークルなどとの連携強化については今年度より模索したい。これは、今年度重点実施を進める予定となっている環境教育インターンシップ制度整備事業ともつながりを持たせることで、両事業にとって効果的になると考えられる。

本事業については、構想を実現させる段階で助成金申請の可能性を探る活動である。

## 1.2. 環境活動分野〔B〕

### 1.2.1. 主催活動

- エコツアー事業〔B.1〕

2004年のセンスオブアース設立年度より7回に渡り継続してきた活動ではある。昨年度は広報の遅れなどもあり、参加者は寺田・池田のスタッフをあわせて6名という実施形態になったが、終了後もセンスオブアースの授業スタッフとして参加するなど、ごみ拾い・地域の方々との交流・自然体験といったエコツアーの成果とあわせて、団体としても意義のある活動となった。

本年度も実施形態や内容等は同様に、9月上旬を念頭において開催の準備を進めるものとする。その際、ツアーの付加価値を考慮に入れ、若干の収益性強化を進めていきたい。

また、高橋が推し進める三宅島・八丈島他の離島でのエコツアーもセンスオブアースとして主催ないしは後援の形をとることで実現したい。開催時期は10月の予定である。

その他、グラウンドワーク三島を通じてネットワークをもつことができた妙高高原など、いくつかの候補についてエコツアーの開催を検討することとする。

- 自然環境整備活動（ビオトープ・校庭芝生の整備）〔B.2〕

蓮根第二小学校のビオトープ・校庭芝生について、毎月第1・3土曜日に行われる定例の整備活動や、その他夏休みの芝刈りや各種体験活動について、スタッフが参加をした。また、昨年度にはビオトープの完成10周年を祝う行事も執り行われ、センスオブアースがその中でネイチャーゲームを実施するなど、その関係は強化されてきている。

今年度についても、基本的に昨年同様活動に関わっていくこととするが、ビオトープの生態系調査や同調査ならびに芝生管理に関わるインターンシップ生の導入などについて、短中期的に検討を進めることとする。

- 地産地消推進活動（区民農園の整備）〔B.3〕

昨年度より本格化した区民農園整備による野菜作りであるが、昨年度は種・苗の植え付け作業や収穫のみを公式な活動としていたため、スタッフが区民農園の活動になかなか関わりづらい状況となっていた。

今年度についても、種・苗の植え付けや収穫は公式な活動として位置づけるという基本スタンスは維持しつつも、スタッフの希望に応じてそれらの維持・管理の活動について出来る限り公式な活動としていくように調整を進めていく。

また、区民農園の整備に関しては、環境教育プログラム「食べ物はどこから」「手前みそを作ろう」「学校

産のとうふを作ろう」や市民向け環境教育講座「手前みそを作ろう」などとの関連が期待される活動であり、地産地消の普及の一端を担う活動としていきたい。

- 自然観察会・環境講座〔B.4〕

昨年度、野鳥に関する自然観察会を1回、みそ作りのワークショップ「手前みそを作ろう」を1回開催した。広報はニュース発行時のフライヤー発送や共催団体との連携により進め、参加者はほぼ定員の数となった。

今年度の自然観察会については、いたばし野鳥クラブとの連携も期待できることから野鳥の観察会を年に1回は設けつつ、水と緑の会など区内の他の団体とも連携を探り動植物に関する観察会も1回設けるべく準備を進めていく。動植物の観察会については、ビオトープの活動との兼ね合いもあり、生態系調査を念頭に置いた講習会形式のものを実施する可能性もある。

環境講座に関しては、ご好評いただいている「手前みそを作ろう」に関しては、昨年度と同様の時期に開催を予定している。そのほか、環境教育プログラム開発の活動との兼ね合いなどもあり、放射能に関わる外部講師による講座の開催を準備していきたい。

### 1.2.2. 外部出展〔B.5〕

- イベント向け環境プログラム研究開発

昨年度、【ECO パーク 2011】【夏休み工作教室】の出展に際し、植物の繁栄のための工夫を、種を通じて知ってもらう活動として「飛ぶ種の模型作り」のイベント向けプログラムを開発した。これまでもイベントで行っていた「買い物ゲーム」や各種ネイチャーゲームプログラムとあわせて、啓発推進のイベント出展の際に用いることのできるプログラムとなった。

一方で、各イベントには継続的に出展を進めていることから、毎年新規のイベント向け環境プログラムが必要になる。イベントによる出展環境の違いなどにも対応を進めるべく、環境教育の各種教育機関向けプログラムの開発と並行して、イベント向け環境プログラムの開発を進めていく。

- 外部のイベントへの出展

外部のイベントに関しては、昨年【アースデイ いのちの森】、エコリーグ関連の【ECO パーク 2011】と【エコ情報交流会】、エコポリスセンター関連の【夏休み工作教室】【まちの環境発表会】【環境なんでも見本市】などに出展した。また、板橋区主催の【子育て講座】に講師として参加した。

今年度に関しては、これらのイベントを啓発推進・広報推進・協働推進の主たる出展目的に応じて分けた上で出展の準備等を進めていくことしたい。いずれの出展も3つすべてに関わるものであることは言うまでもないが、分割を進めることでイベント出展時の成果を検証しやすくすることが目的である。具体的には、啓発推進活動ではイベント参加者への知識や自然体験の場の提供、広報推進活動ではセンスオブアースの活動の周知や参加・入会の呼びかけ、協働推進活動ではイベント開催団体との連携の強化をそれぞれ目的とする。

啓発推進活動として今年度出展を予定しているのが【アースデイ いのちの森】である。豊かな自然の中でネイチャーゲームを行うことで、自然体験の場を提供できる機会となる。広報推進活動としては、【ECO パーク 2012】や【エコ情報交流会】への参加があげられる。イベント内でのワークショップで啓発的な側面もあるが、今年度はインターンシップ生の獲得を最重要課題としているため、大学生との交流を主たる目的と据えた。最後に協働推進活動であるが、ここはエコポリスセンターの事業を引き継いだ新事業者の学研との連携を念頭に置く。出展要請などに応じる形で、方針を見極めつつ協働を推進していきたい。

その他、新規のイベント出展に関しては随時検討し、準備等を進めることとする。

## 2. 2012 年度 運営方針

- ◆□ 3年後の五百万円規模の組織を念頭に置いた、本事業年度の財政を二百万規模へと大幅に発展させる
- ◆□ 実質的なボランティア団体からの脱却による、仕事としての環境教育普及活動への道を開く
- ◇□ ニュース発行・ワークショップなどの月例活動への会員の積極的参加を促す
- ◇□ 2014年6月のSoEニュース100号を目指して、広報活動を継続する

センスオブアースは、特に環境教育の分野でここ数年間に飛躍的な活動の拡大を見せ、昨年度には板橋区において板橋エコアクションアワード2012の環境教育部門優秀賞をもらうまでに発展してきた。一方で年間の会計規模は、沖縄エコツアーを除くと、収入合計1,144,945円と百万円規模の団体言え、今年度の二百万円、3年後の五百万規模の団体への発展といった目標の達成に向けては課題も多い。ボランティア団体からの脱却に向けても会計規模の拡大は不可欠であり、改善が求められる。その改善に向けて、以下に組織運営・経理・広報の観点から方針を示す。

### 2.1. 組織運営 [C.1]

3年後の五百万規模の財政を伴う団体への成長に向けて、組織運営体制の強化も不可欠である。事務部門を事務局が担いつつ各活動に実動部隊であるスタッフを充実させていくといった体制面での強化と、既存のワークショップなどでの議論を軸とした運営面での継続が必要となる。

強化を進める体制面に目を向けると、事務局では組織運営・経理・広報の3つの柱をもって団体の運営全般を進める一方、外部からのスタッフの募集や経営強化に向けた助成金の申請、会員数増に向けた会員制度改革の提案などを担う。また、実動部隊として活動しているスタッフを理事として据えることで、理事会を実働組織とし、環境教育の普及を始めとするセンスオブアースの活動をさらに発展させていく。

#### 2.1.1. 体制面

##### • 事務局体制

以下のような組織体制及び業務内容とする。なお、渉外に関しては、実践に携わるメンバーが直接対応にあたるのが現実的には多いため、事務局内には設けないこととする。担当者は「理事等の選任に関する議案」にて検討する。

- |  |
|--|
| A) 事務局長<br>業務内容：事務関連の統括・スタッフ募集・助成金検討・会員制度改革                                  |
| B) 事務局（組織運営担当）<br>業務内容：活動管理・スタッフ動静管理・議案の調整                                   |
| C) 事務局（経理担当）<br>業務内容：会計処理<br>※ 活動参加費の試算・助成金への対応等には、事務局長などが補佐として入る            |
| D) 事務局（広報担当）<br>業務内容：月例のニュース発行・HPの更新<br>※ 各種フライヤーの作成には、各活動の担当者が基本的にはあたることとする |

##### • 理事会

センスオブアースの理事は、2004年の設立当初のメンバーを変更せずにきている。そのため、最近ではあまり活動に関わっていないメンバーも残っており、実態にそぐわない状況とも言える。

そのため実質的な実働組織へと改変するべく、2012年度の年次総会による承認及び諸官庁への書類提出をもって、理事の交替を進めることとする。具体的には、「理事等の選任に関する議案」にて検討する。また、これまで設置してこなかった顧問についても設置を検討する。

- **スタッフ体制**

スタッフの動静管理については事務局の組織運営担当が、スタッフの充実に向けた対応には事務局長があたることとする。

なお、動静管理については活動管理・活動参加費管理も含めて既存の EXCEL のシステムにて管理する。参加表明・登録についてもホームページでできるように準備を進めるなど体系的な充実も加え、多くの人の参加を受け入れ可能な事務局の体制を進めていく。

スタッフの充実に向けては、「環境教育インターンシップ事業」の参加者であるインターン生とその他スタッフの2つの参加形態を念頭に置いて充実を進める。インターン生の募集・起用を運営スタッフの一つの軸としつつ、その他スタッフについても募集を強化する。具体的なスタッフの充実に向けた対応としては、フライヤーの作成・ホームページ等の更新の他、イベント出展に関して大学生などに活動を広めることの出来る広報推進の活動を設定する。ML等で活動の日程等を随時発信できる体制を作り、その登録を促していく。

## 2.1.2. 運営面

- **運営会議・ワークショップ**

センスオブアースの団体運営に関して、事務面を事務局が、各活動はスタッフが担うことは前項で示した通りだが、活動の基本的な方針や各種プログラム開発など、活動の基幹となる議案は運営会議やワークショップにて検討されることとする。

新規の理事が集まりやすい毎月第2日曜日を基本とするニュース発行日を状況によって臨時理事会にも変更し得る運営会議、毎月第4日曜日を基本とする日をワークショップと便宜的に位置づけることにするが、特にその決定についての重みの差はない。現実的には第2・4日曜日に団体運営に関する議論を進めることとする。

なお、運営会議・ワークショップでの議案については、主たるものとして環境教育プログラム研究開発、出張授業・イベント準備、各種日程調整がある。昨年度までの課題として各出張授業に対する準備不足があげられることから出張授業準備については議案に積極的に取り上げていくこととする。また、環境教育プログラム研究開発に関しても、インターンシップ制度との兼ね合いで重視する。その他、昨年までの議案事項を踏まえ、エコツアー等主催活動の準備、助成金の申請準備なども必要に応じて随時行うものとする。

- **年次総会**

社員（会員）による活動報告・会計報告の承認を得て、活動方針・予算について検討する。本年度は定款（会員制度）に関する改訂議案も検討する予定である。

日程については4月29日（日）とし、案内を4月8日（日）以降に送付する。なお、案内の送付対象たる社員（会員）は4月20日（金）段階でセンスオブアースの会員制度に登録しているものとする。

## 2.2. 経理〔C.2〕

経理に関しては、今年度の二百万規模、3年後の五百万規模の財政を目指すべく、経理の明確化と採算分野の強化を進める。会計を分野別に算出することで採算分野か否かの判断を明確化すること、採算分野について事業化などを進めて収入に増やしていくことを目指す。収入面の強化をもって、活動の拡大や組織の強化へとつなげていく。

まずは、会計の可視化とその運用についてである。センスオブアースの活動は、事業ベースで環境教育の他、エ

コツアールやビオトープ整備・区民農園整備と多岐にわたる。本事業年度では、それらの各活動を分野などに細分化し、分野ごとに運営・会計をする形とする。採算分野を強化することで、不採算分野を補っていきつつ活動参加費や事務局給与を充実させ、また環境教育の発展に向けた更なる投資を進める。

次に、採算分野の強化であるが、2012年度より採算分野として強化を進める活動を特に事業（以下「～事業」と表記される活動）と位置づけ、運営上強化していくこととする。この中には、事業収入の増加を見込む「エコツアー事業」や、助成金収入の獲得を目指す「環境教育インターンシップ制度整備事業」「大学サークル支援ネットワーク構想事業」などがある。

その他、収入に関わる部分としては、継続的な事業収入の確保と会員制度改革に伴う会費収入の確保を提案する。

一方、支出についてスタッフの活動参加費・運営に関わる事務局給与の充実を進めていく。参加費等の充実では、活動参加に対して交通費と1回につき1,000円程度の謝金を、事務局などには業務に応じて月額数万円程度を支払うことを中長期的な目標として据えている。

## 2.2.1. 収入の部

### • 事業収入

センスオブアースの事業収入は、環境教育の出張授業に対する講師料、新規プログラムの実証授業時にエコポリより支払われる講師料、その他外部の講演会の講師料などがあげられる。

それらの事業収入に関しては、昨年度同様に獲得を念頭に学校や行政などに働きかけを進めていく。保育園での実践が、保育園の予算枠の問題で事業収入に結びついていない点については、他の活動による収入で補填することを前提としつつ、行政等への働きかけも検討する。

2012年度の事業化分野としては経常利益を見込める「エコツアー事業」があげられる。第8回目を迎え、ツアーの内容に付加価値を見出すことで若干の参加費用増額（ないしは運営費用の減額）により収益性を高めることが期待される。また、その対象を沖縄だけでなく、離島などへと拡大し年間の実施回数を増やすことで、更なる収益性が期待できる。

その他、既存の活動に関わらない新規立ち上げ事業については、以前より物販や塾等の経営が念頭に置かれているが、長期的な検討事項としたい。

### • 会費・寄付収入

昨年度、センスオブアースの会員には会費未納者も含めて一般・学生計33名が登録され、会費収入として151,000円（過去の分の支払いも含む）が計上されている。また、寄付に関しては78,000円が回収された。会費・寄付の収入の合計は229,000円となる。

今年度においては、2012年3月中の会員への登録・継続のお願い、会費納入の振り込み用紙送付により、会員数増と会費収入増を目指している。通年では、9月のニュース発行にあわせて寄付のお願いを送付し、年2回の会費・寄付回収の流れを確立させていく。ただし、総会などとの兼ね合いを考え、前年度会員について、6月までは特に申し出が無ければ会員と暫定的に見なすこととし、同時に契印の継続をお願いする。

一方、会員制度については、総会における議決権を持つ正会員と持たない賛助会員との会員区分の曖昧さや、定款に定められていない学生会員の事実上の運用など、実態にそぐわない状況が存在した。そのため、以前からの懸案事項でもある会員特典の設定とあわせて会員制度の改革を進め、年次総会にて承認を得よう働きかけることとする。但し、年会費の額については一律で減額する案や固定額を定めない案など検討段階で方向性の確定が出来ていないため、本総会の定款変更を経た上で、会員特典などと同様追って理事会で検討するものとした。また、サポーター制度の運用についても検討する。

### • 助成金収入

これまであまり検討してこなかった助成金であるが、板橋エコアクションアワードの受賞など、活動への評価の高まりを受けて2012年度より強化していくこととする。新規に事業化した「環境教育インターンシップ制度整備事業」「大学サークル支援ネットワーク構想事業」がその対象となる。

2012年度からの助成金を申請している「環境教育インターンシップ制度整備事業」では、主に大学生に対して環境教育の指導法を身につける機会や指導自体を経験する場を提供する。本年度助成金助取得はならなかったが、成金の取得が実現すると、実働スタッフに対する活動参加費や環境教育プログラム研究開発に関わる諸経費、インターンシップ生に対する交通費等の助成が可能になり、センスオブアースの主たる支出の多くを賄うことが出来るため、今後も助成の申請を行っていくこととする。

次年度以降の助成金申請を念頭に置いて準備を進めている「大学サークル支援ネットワーク構想事業」では、将来的に環境教育を進める大学のサークルなどをネットワーク化し、環境教育プログラムの充実や実践事例の増加を見込む。本事業に関しては、助成の用途が限定されないものでの助成金取得を目指し、取得にあたっては既存の活動の拡大や事務局給与の充実を目指すものである。

- 賛助金（協賛金）収入

今年度はCSR活動などを盛んに行っている企業などとの協働の推進させていく計画を示している。そのつながりの中で、会員制度とは別枠で個人・法人・各種団体などに、一口1万円程度の賛助金制度への参加を模索していく。

## 2.2.2. 支出の部

- 人件費

2011年度の支出において最も大きな割合を占めるのが人件費（活動参加費）である。昨年度で約25万円を計上している。しかし、1回につき500円の参加費は参加者にとっては交通費を賄うにも至らず、不十分な額であると言える。そこで、長期的な目標として参加者に対して往復の交通費と各1,000円程度の謝金（注：エコポリは交通費無しで2,000円）をサポーター及び会員に対して支払うことを考えている。財源は、本来恒常的な収入が望ましいが、現実的には次年度以降の助成金などを念頭に置いている。助成金の申請が受理されなかった今年度については、活動参加費各1,000円として支払うことで調整を進めたい。

一方、事務局及びスタッフのうち渉外等に当たる者は活動日にとらわれない活動も多く、活動参加費でその費用を賄うことが難しいのが現実である。そこで、活動の内容等に応じて事務局給与などの形で月額での給与の支払いを進めることを考えている。この支払いは活動参加費とは別の会計とし、事務局給与を受けた者も活動参加費は別途受け取れるものとする。

- 事務費用・通信費用などの諸経費

センスオブアースの支出の中で一定の割合を占めるのが、ニュース発行に伴う事務費用（用紙代・封筒代等）や通信費（切手代）、環境教育プログラム研究開発活動に伴う事務費用（備品代・書籍代等）、その広報に伴う事務費用（用紙代・インク代等）や通信費（切手代等）、インターネットサーバーの契約費用などである。これらに関しては、現状通りの支出として2012年度も計上していく。

但し、ニュース発行については会員増加を見込む一方でHPでの公開やメールでの発信の形態での送付も検討し、個人会員に向けたものは徐々に削減させていく方向で調整し、それにより事務費用・通信費用の削減も進めていく。

一方で、「環境教育インターンシップ事業」や「環境教育ネットワーク事業」などの新規事業展開や既存の活動の拡大による事務費用・通信費用の増加については、当初より見込んで計上する。

- その他

その他費用については、ニュースの原稿執筆料の支払いやプログラム研究開発に伴いプログラムの成立に対して1件あたり2,000～3,000円の支払いなどを検討する。後者については、昨年度同様エコポリより実証授業に対する謝金が支払われる場合には現実的であると言える。

## 2.3. 広報 [C.3]

広報活動の主たる目的として、環境教育などの活動の意義の啓発、団体やイベントの周知及び活動への参加呼びかけがあげられる。啓発面では74号を迎えたニュースによる継続的な発信はもちろんのこと、HPのコンテンツも充実させる。また、活動参加者を増やしていくにあたっては、HPの内容や各種イベントでのフライヤー配布を充実させ、MLを活用した広報を進める。

### 2.3.1. 啓発に関わる活動

- ニュース発行

保育園・小中学校や図書館などの行政機関、会員など幅広く発送しているニュースの発行部数は毎月2,600部を数える。号数も2012年3月現在74号となっており、累計の読者は相当数にのぼる。4月より新たに私立保育園・公立幼稚園へと広報ルートを広げ、間もなく学童クラブ・児童館へと発送先を拡大させていく。今回の板橋区環境活動大賞の環境教育部門優秀賞受賞の理由の一つは、このニュースの発行の継続性・頻度・貢献度が評価されていると考える。区立図書館でも、棚に置かれ、そこから手に入れていると言った市民もいる。

今年度以降も継続していくことはもちろん、2014年6月ごろに予定される100号の発行という大きな節目を目指して邁進していく。

内容に関しては、読むことで気軽に環境が学べたり、環境学習を普及させていく意欲が生まれたりする新聞にしていきたい。年に数度、編集方針を議題として改善を重ねていく。

発送先については、現状の発送分のうち、個人読者を除く分に関しては現状通り発送を進める。一方、個人読者については支出面での負担もあることから、読者の意図を踏まえて発送を取りやめたり、ペーパーレス化も視野に入れてHPやメールで配信したりする。新規の読者開拓は随時行うものとする。ニュース発行の対象者をどの範囲にするかという懸案事項については、読者の意図等を踏まえつつも、ニュース発行は会員特典に位置づけられないという基本スタンスのもと、HPでの公開と送付対象者への郵送またはメールでの送付にて広く展開させるものとする。

また、賛助金などとの兼ね合いでは、支払いに応じて公告(団体・個人名の紹介程度)を掲載するような企画も検討を進めていく。

- ホームページ

昨年度、大幅な改定を進めたホームページであるが、現状では「団体概要」「活動内容」「活動案内」が簡単に紹介されている他、沖縄エコツアーや環境教育プログラムバンクが特集ページにて示されている。また、速報の活動報告についてはFacebookなどの媒体を利用している。

ホームページの内容については、基本的には現状のものを維持しつつ、「団体概要」においてニュースの公開を含めた活動の記録ページを作成したり、「活動内容」において各活動の紹介資料を用意したり、そのコンテンツを強化させていく。デザインについても、若干変更する予定である。

一方、活動の報告については、Facebookを簡易報告兼写真の公開に用い、詳細報告を活動に参加したスタッフがブログに随時書き込む形式で進めていきたい。

## 2.3.2. 活動の周知、参加者募集に関わる活動

- ホームページ

現状では「活動案内」にて、イベントや授業の予定とお誘い、会員制度への登録をお願いしている。また、Facebook でもイベント案内や授業予定は公開している。

今年度についても、デザインや申し込みフォーム等の使い勝手については改善しつつも、Facebook を含む HP での広報は現状維持とする。HP を情報の集約場所として、各種フライヤーや活動を通じて、HP の閲覧を増やしていき、活動への参加を促していく。

中長期的には、活動管理用のシステムをインターンシップ上に構築し、より活動予定の閲覧や登録をしやすい形へと移行させていく。

- フライヤー

フライヤーについては、各種イベント出展やイベント開催に向けて、ニュース発行に同封する形で参加を促す役割を担っている。また、イベント出展時に団体の広報をするためのフライヤーもあり、そちらに関しては、活動への参加や会員制度への登録の促進を担う。

これらフライヤーの担う役割は今年度も同様に位置づけ、デザイン性は強化しつつも、現状通り作成・発信を進めていく。

通年の広報計画に関しては、沖縄エコツアーやネイチャーゲームリーダー養成講座など、定例化しつつある活動について、早期に広報を開始するものとする。

- メーリングリスト

ML に関しては、現状では ML 登録者への活動予定の配信と参加可能日程の確認を担っている。但し、ML による活動参加者の確認は返信が集まりづらく、直接メール・電話等で出欠を確認しているのが現状である。また ML の使用用途として、時折リスト登録者よりイベント案内などもあるが、その点でも有効利用されているとは言いがたい。

現状では学校名なども含む活動予定を HP 上に公開することの安全性が担保されておらず、また自発的に HP で予定を確認し出欠をメールする形ではさらに返信率を下げかねないことから、ML の利用については現状維持としつつより効果的な利用の仕方を探っていく。

ML の登録者に関しては、立ち上げよりのセンスオブアースとのつながりが集約されていると言えるが、一方で現在の活動従事者とはそぐわない部分もある。スタッフ用 ML の創設等も検討しつつ、こちらも効率性を高める努力を進めていく。